2 学力向上を図る取組

（1）各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力		
知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①読み・書き・計算などの基礎学力や、言語能力育成のための語彙力 ②学習内容を他教科や実生活と関連付けたり、既習の学習をもとにして新たな知識を学習する力	③「読むこと」「話すこと・聞くこと」の理解力 ④自分の考えを、理由や根拠を裏付けて記述・発表したり、既習事項から考えを広げて、表現する力	⑤進んで考えたり、粘り強く課題に取り組んだりする力 ⑥筋道を立てた思考に基づき、見通しとふり返りを通して自己の学習を調整し、他者との協働を通じて学びを深め、自己のキャリア形成に活かす力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①③	①言葉集めを行い、文づくりや日記等で活用する。図書室を活用する時間を意図的に増やす。 ③文と文のつながりを意識させながら文章を読み、挿絵からも情報を読み取らせる。	
算数	①④	①加法・減法・乗法を繰り返し練習し、定着させる。 ④解き方や考え方を表現するときに、理由を加えて発表や記述をさせる。	
生活	②⑤	②算数科や国語科で学習したことをもとに自分の考えを書いたり発表したりする機会を設ける。 ⑤導入の工夫をしたり見通しをもたせたりして、意欲付けをする。	
音楽	⑤⑥	⑤音や音楽に親しむことができるように、身体表現を多く取り入れる。 ⑥グループでお互いの音を聴いて合わせる喜びを感じられる活動を入れる。	
図画工作	⑤	⑤イメージが膨らみ、進んで活動をしたくなる導入を工夫する。 ⑤活動の見通しをもてるように手順や場の工夫をする。	
体育	⑤⑥	⑤様々な運動遊びを知り、運動やゲームの仕方を考え、工夫して繰り返し取り組む。 ⑥友達のよいところを見付け合い、教え合うようにする。	
英語活動	⑤⑥	⑤進んで話しかけ、英語で表現したり、コミュニケーションをとったりすることを楽しませる。	

		⑥ペアやグループ、全体での活動の中で、簡単な挨拶・会話表現に慣れ親しませる。	
特別の教科　道徳	②⑤	②ワークシートへの記入や、動作化を通し、授業で扱う内容を、自分のこととして捉え、自己や他者について考える。 ⑤場の設定を工夫する。ペアやグループ討論、役割演技を取り入れる。また、具体物を使って、自分の考えを表現する。	

A･･･取組の効果が十分に見られた　B･･･今後も課題として取り組む　C･･･取組を見直す

2 学力向上を図る取組

（1）各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力		
知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①読み・書き・計算などの基礎学力や、言語能力育成のための語彙力 ②学習内容を他教科や実生活と関連付けたり、既習の学習をもとにして新たな知識を学習する力	③「読むこと」「話すこと・聞くこと」の理解力 ④自分の考えを、理由や根拠を裏付けて記述・発表したり、既習事項から考えを広げて、表現する力	⑤進んで考えたり、粘り強く課題に取り組んだりする力 ⑥筋道を立てた思考に基づき、見通しとふり返りを通して自己の学習を調整し、他者との協働を通じて学びを深め、自己のキャリア形成に活かす力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①③	①新出語句とそれに関連した語句を調べて理解する取組をする。意味調べの活動を増やし、辞書使用する場面を増やす。 ③音読活動を繰り返し取り入れ、書かれている内容を理解できるようにする。	
社会	④	④図や表、写真から必要な情報を読み取り言葉に表す取組を行う。また、ペアやグループで、考えを伝え合う場を作る。	
算数	①⑥	①授業の最初に既習事項を復習する。 ⑥学習の形態を工夫し、ペアやグループなどで協働学習を行う。 ⑥根拠を基に筋道を立てて考えたり、学習の振り返りをしたりすることで、活用しようとする意欲をもたせる。	
理科	④⑤	④分かったことを自分の言葉で記述する取組をする。 ⑤実験して分かったことを基に仕組みを考えさせる場面を多く取り入れる。	
音楽	①④	①④音楽を表す言葉を増やし、感じ取ったことや気づいたこと、どのように表現したいかを、音楽的な言葉や理由と関わらせながら友達と話し合ったり演奏表現したりすることができる取組をする。	
図画工作	⑤⑥	⑤つくり、つくりかえ、つくる学習の過程を大切にする。 ⑥自分の作品を説明したり、友達の作品のよいところを文章や言葉で伝え合ったりする取組をする。	

体育	④⑤	④できたことや考えたことを自分の言葉で説明させる。 ⑤自分の課題にあった場を選択し、繰り返し粘り強く活動させる。	
外国語活動	①④	①英語の歌や ALT の発音をよく聞き、正しい発音やアクセントを意識して正しく表現できるようにする。(英語の歌) ④Small Talk や既習事項を参考に、習った表現を豊かに活用できるよう、表現の選択肢を提示したりコミュニケーションの場を多く設定したりする。	
特別の教科 道徳	④⑥	④自分の考えを、根拠を加えて説明できるようにする。 ⑥対話等を通して、深まった自分の考えを振り返りカードに表現させる。	

A･･･取組の効果が十分に見られた B･･･今後も課題として取り組む C･･･取組を見直す

2 学力向上を図る取組

（1）各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①読み・書き・計算などの基礎学力や、言語能力育成のための語彙力 ②学習内容を他教科や実生活と関連付けたり、既習の学習をもとにして新たな知識を学習する力	③「読むこと」「話すこと・聞くこと」の理解力 ④自分の考えを、理由や根拠を裏付けて記述・発表したり、既習事項から考えを広げて、表現する力	⑤進んで考えたり、粘り強く課題に取り組んだりする力 ⑥筋道を立てた思考に基づき、見通しとふり返りを通して自己の学習を調整し、他者との協働を通じて学びを深め、自己のキャリア形成に活かす力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①②③	①学習内容のねらいを明確にし、文章の内容の理解を正しく読み取るための知識・技能を身に付けさせる。 ②言葉の特徴や使い方の知識を他教科や生活と相互に関連付けて定着させる。 ③読みを深めたり、読書に対する意欲を高めたりするために、作者の他の作品を紹介したり、実際に読ませたりする。	
社会	④⑥	④複数の資料を関連付けながら、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えていく活動を効果的に取り入れる。また、授業の中で、社会に見られる課題について、自らの関わり方を考える時間を設ける。 ⑥社会的事象の意味を理解し、問題解決のために考えをまとめたり、話し合ったりする活動を行う。	
算数	②④⑥	②プリントやドリル教材を活用し、学習の習熟を図る。 ④グループ学習を通して、全ての児童が問題解決に取り組み、その理由や根拠を伝え合う場を設ける。また、学習内容についての理解を深めるために、自分の解決方法について説明する活動を多く取り入れる。 ⑥既習内容と関連付け、自分で道筋を立てたり、話し合ったりしながら、課題に取り組ませる。	
理科	④⑥	④自分の立てた予想や実験・観察の結果について、根拠や理由を書かせたり、話し合わせたりする時間を設定する。 ⑥予想したり、実験の結果について考察したりする中で、自分の考えをもてるようにする。	
音楽	②④⑥	②④⑥既習の学習を基に音楽の語彙力を増やし、感じ取ったことや気づいたこと、どのように表現したいかを音楽的な言葉や理由と関わらせながら思いや意図を演奏表現に広げていく取組をする。	

図画工作	②⑥	②道具を適切に扱う技能を身に付けさせ、自分の思いをよりよく表現させる。 ⑥題材に対して自分の表したいイメージをもち、見通しを立てて活動に取り組ませる。	
家庭	②⑥	②実習や観察、調査を通し基礎的、基本的技能を身に付けさせる。 ⑥実践的な態度を育てるために、家族の一員として家庭生活に見通しをもたせる。	
体育	④⑤	④考えを伝え合う場や見合う場を設定し、考え学び合いながら活動できるようにする。 ⑤ペアやグループでの活動を多く取り入れることで、運動の楽しさや喜びを味わい、やり切ることの喜びを感じさせる。	
外国語科	②④	②2人のALTとの交流の機会を数多く作ったり、デジタル教科書を効果的に活用したりすることで、外国語の音声を十分に聞いたり、思いを表現させたりする経験をさらに積ませる。 ④スライドやポスターなどを作成し、自分の考えを発表する機会を多く設ける。	
特別の教科　道徳	⑤⑥	⑤問題解決学習で考えを深め、自分の経験と重ねて考えさせる。 ⑥学習を通して考えたことを自分の言葉で振り返り、自分自身の生き方について考えることができるようにする。	

A･･･取組の効果が十分に見られた　B･･･今後も課題として取り組む　C･･･取組を見直す

（2）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○道徳の時間の充実	・毎月末の金曜日を「SEED」の日とし、道徳教育の充実と推進を図る。毎月、学校で設定したテーマのもと、家族で話し合う時間を設定するよう呼びかける。
○学習形態の工夫と組織づくり	・担任と T・T 担当の教師やアッピースマイルサポーターとの打合せの時間を設け、個別に対応が必要な児童や、個々の習熟度の様子を話合い、個別に合った支援を行えるようにする。
○理科専科による高学年の授業	・3、4、5、6年生の理科の授業を理科担当教員が行うことで、「より専門的な学びの充実」「担任による教材研究や観察・実験の準備の負担軽減」が実現するようにする。
○毎週水曜日の昼休みの時間「あずまッピータイム」	・「あずまッピータイム」では、お話集会や児童集会、縦割り班での活動（ありがとうカード、遊び等）、ロング昼休みなどを行い、児童の豊かな心を育成する。
○全学年での一部教科担任制の実施	・学年内において、一部の教科で担当を入れ替える「一部教科担任制」を取り入れている。生徒指導の視点で、複数の目で学年の子供たちをみるという意図だけでなく、担任の教材研究の時間短縮も視野に入れている。学年の担任全員で一人一人の児童の成長を支援できるようにする。

家庭教育との連携	
○学校の教育活動の見える化	・個人面談、懇談会、連絡帳、学年だより等で情報を発信したり、ホームページやさくら連絡網等を活用しての教育活動等の紹介を各学年月に1回以上行ったりし、本校の教育活動への理解と協力を促す。
○家庭学習の取組	・学習の基礎・基本である音読や計算の課題を出す。デジタルドリルを活用し、自分の習熟にあった課題に取り組み、基礎学力の定着を図る。また、課題の出し方を工夫し、児童が自主的に家庭学習に取り組めるような指導も行い、自主学習の充実を図る。
○年間2回の授業参観日と公開日、道徳・外国語授業の公開週間の実施	・年間2回の授業参観日と年間2回の公開日を実施し、本校への教育活動への理解と協力を得られるようにする。また、9・10月に道徳の授業を、2月に全学級の英語活動・外国語活動・外国語科の授業を1週間公開し、本校児童の道徳や外国語に対する授業を理解・評価していただく。